

各校で文化祭シーズン

榴祭と学院祭を開催

秋はじめの九月月上旬、県内の高校や中学校では文化祭のシーズン。本学院でも榴ヶ岡高等学校の「榴祭」が九月五日、六日と中学高等学校の「学院祭」が九月六日、七日の両日催され、他校の生徒や父母などにぎわった。

今年で三十五回目を迎えた榴祭は、「榴・榴・榴」の三つで、各催しが繰り広げられる。初日は中学弁論大会をはじめ、学内で展示発表がなされ、午後の一般公開では吹奏楽部(写真上)・音楽部の発表や昨年に続いて生徒会企画のNGO(民間非営利団体)代表による講演が行われた。また公開イベント、礼拝堂正面付近にはバザーや出店が軒を連ね活況を呈した。



文化祭、運動部毎に展示や出店(写真上)が軒を連ねて呼び込みが盛んに行われ、二日間にわたった「榴祭」は盛況のうちに幕を閉じた。



吹奏楽部の発表が、文化祭の盛り上がりをつとめた。

八月三十一日、来春開校予定の法科大学院の受験者を対象とした「平成十五年法科大学院適性試験」(大学入試センター主催)が本学土樋キャンパスで行われた。写真。東北地区では東北学院大学と東北大学の会場で行われ、本学では二百六十一人が受験し、第一部「読解・分析力」、第二部「読解・表現力」の試験に挑んだ。同試験は、法科大学院で期待される。

勉学の質と量に对应できる適性・能力・資質を評価する試験で、九月以降に本人へ結果通知の後、法科大学院の入学試験を受験する。

適性試験は、大学入試センターと日弁連法務研究財団が実施したが、本学では平成十六年度入学者についてはどちらの適性試験による結果でもよいことにしている。

なお、本学法科大学院の平成十六年度入学者選抜は、前

元理事・副学長・法学部長 斎藤秀夫先生逝去

藤秀夫先生が、九月六日に逝去された。九十四歳。

斎藤先生は、昭和八年東北大学法文学部法律学科卒、同八年同大学講師、助教授を経て同二十四年に法文学部教授、同二十八同大学法学部長な



藤秀夫先生が、九月六日に逝去された。九十四歳。

十 聖書のことば

「安息日を心に留め、これを聖別せよ」

(出エジプト記二十章八・十一節)

キリスト教の礼拝を、それ以外の時間の中断として説明したのは、一九世紀下、ドイツ最大の神学者シュライエルマハーです。まさにその通りではないでしょうか。私たちの太事も毎日十時から三十分授業や仕事を中断して礼拝を捧げています。一般の教会の日曜日の朝の礼拝も同様です。週日の働く生活、あるいは能動的な生活を中断して、われわれの働きを止めて、神の前に徹底して受動的な姿勢をとりつ立つ、それが教会の礼拝です。じつさい日曜日(こと、七日)に、仕事を休んで礼拝をするということ、時間やスケジュールから来たものでない、いまい、七日に一回休むという恩恵にみんなが気づかずにいます。旧約聖書

訪れ、各催しが繰り広げられた。初日は中学弁論大会をはじめ、学内で展示発表がなされ、午後の一般公開では吹奏楽部(写真上)・音楽部の発表や昨年に続いて生徒会企画のNGO(民間非営利団体)代表による講演が行われた。また公開イベント、礼拝堂正面付近にはバザーや出店が軒を連ね活況を呈した。

の十戒には、安息日には、家族だけでなく、男女の奴隷・寄留の外国人、それに家畜まで、みな休むことが定められています。そのようにして神に礼拝をささげ、それが安息日でした。ホリデーはホリデーから来たことを改めて私たちは思い起こしたいものです。

中断の一つの意味は、いま自分が手がけているものから手を離すことです。それは、たとえその仕事が自分にも社会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものであるということです。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろいろな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になっっている人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っているからこそ、私

中断としての礼拝

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものであるということです。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろいろな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になっっている人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っているからこそ、私

キリスト教学科長 佐藤 司郎

法科大学院適性試験を土樋キャンパスで実施



勉学の質と量に对应できる適性・能力・資質を評価する試験で、九月以降に本人へ結果通知の後、法科大学院の入学試験を受験する。

適性試験は、大学入試センターと日弁連法務研究財団が実施したが、本学では平成十六年度入学者についてはどちらの適性試験による結果でもよいことにしている。

なお、本学法科大学院の平成十六年度入学者選抜は、前

シリーズ 中・高

毎年七月下旬に東京のNHKホールを主会場にしてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会が行なわれる。「放送部の甲子園」といわれる大会である。われわれ東北学院榴ヶ岡高校放送部は今年も宮城県代表としてこの大会に参加することが出来た。

毎年のことながら、アナウンスや朗読など全国大会で披露されるパフォーマンスのレベルはとて高く、出品される番組も面白いものばかりである。決勝ともなるとプロと比べても遜色ない作品がずらりと並ぶ。

そんな大会の内容もさることながら、一番印象的だったのは、会場で審査の結果に一喜一憂する高校生たちの様子である。その笑顔も涙もみんな一生懸命活動している証なのだ。

文化部という、となく軽く見られがちだが、放送部という内容によって構成

教養学部教授 伊澤長俊氏逝去

伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と



伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と

元法学部教授 加藤永一氏逝去

元法学部教授の加藤永一先生が、八月二十一日逝去された。七十七歳。

加藤先生は、昭和二十五年東北大学法学部卒、同二十八年同大学講師、同三十九年助教、同四十四年教授、平成元年に東北学院大学法学部教授に迎えられ、同六年定年退職後も嘱託教授を務めた。

遺族 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目三十一番六号 加藤 裕子様



中学・高校事務長補佐 阿部信行氏逝去

本学中学・高等学校事務長補佐阿部信行氏は、七月二十五日逝去された。六十三歳。

阿部 洋子様

幼稚園

七月十八日、十九日の両日、利府町のキリスト教森郷キヤンプ場にて年長児を対象とした一泊保育が行われました。

当日の午前中で雨が降り、空を見上げてはただ祈るばかりでしたが、出発する時には雨も上がり子供たちもお家の方も、教職員も大喜び。期待と少しの不安が見え隠れしています。バスに乗り込み出発していきます。到着後開会礼拝を守り、写真や散歩をしたりと森郷を満喫していると、カレーの美味しそうな香りがキャンプ場に立ち込めました。メニューは子供たちが大好きなカレーです。

保育内でも幼稚園で収穫されたきゅうり等をナイフで切った経験もあり、器用にじゃが芋、人参、玉葱を切っていました。中には玉葱を切った中に玉葱を切った涙が落ちていました。出来上がりを待つ間に、斜面を登り写真や散歩をしたりと森郷を満喫していると、カレーの美味しそうな香りがキャンプ場に立ち込めました。メニューは子供たちが大好きなカレーです。

全国大会にて

榴ヶ岡高等学校教諭 細越 康伸

部の活動は結構たいへんである。われわれの活動も特にNHKのコンテストの時期は定期考査と期間が重なるため、その直前はものすごく忙しい。番組づくりもこの時期が勝負である。が、完成までには工夫を凝らす。完成までにはいつもハラハラしておいたが、完成にこぎつけた時の喜びは何物にもかえがたい。今年、自らの番組で全国大会の出場権を勝ちとったわが部の部長は、「この番組に今までの私の全てを注ぎ込んだんです」と言い、全国大会の出場をとても喜んでいました。仲間たちと協力し合っつてひとつの事にあたり、全力を出し切つてそれをやり遂げる。高校時代に「全力を出し切つてひとつのことに取り組む」と言い切れるような経験ができたことはとても幸せなことだと思ふ。そういう努力が毎年全国各地でなされ、みんな同じ思いで全国を目指し、東京に集まってきたのだというのを改めて感じた。

われわれも、さらに上を目指し活動を充実させていきたいと思ふ。

二日目は生憎の雨に見舞われましたが、室内で生き物観察をし、大きなガマガエルや青大将(ヘビ)が出て来ると一斉に歓声が上がります。生憎に一斉に歓声の後、早速触り出す子やおそろのおそろの覗き込む様子や反応はさまざまですが、多くの子がヘビを首に巻き、カメラに向かってVサインをしていました。

家から離れた自然の中で友達と力を合わせて様々な経験をした子どもたちは、一段とたくましさが増し、出迎えられる心配そうな父母とはうらはらに元気一杯の笑顔で一泊保育を終えました。(幼稚園)